

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (39)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

Basic に基づき、そしてその意味哲学(semantics)を背景に英語修得を考えている
 本会であるが何かにつけ要領よく、どうすれば遠回りとならない手早い近道となる
 かを常に考えていないと何十年たっても大して力是不会変わらないままで、気づいたら
 浦島太郎となってしまう。昔も今も一般に日本人の英語修得はこれが実情に思える。

何かと米国の著名な言語学者も特徴のある Trump 氏の英語には大統領在任中から
 コーパス言語学(corpus linguistics)的なコンピュータ分析を試みているが、本連載で
 は Basic 語を意識し要領のよい理解法を考えている。特に語の原義(root sense)に関
 し、黒海(Black Sea)北西部の今日のウクライナ(Ukraine)の地に発祥のルーツをもつ
印欧祖語(PIE : Proto-Indo-European)までさかのぼり見ている〔この印欧祖語の発
 祥の地などに関しては拙著(2016)、松柏社、第一部 pp.9-10、p.22 の地図参照〕。

2017 年 1 月の大統領就任以来、ロシア疑惑で振り回された Trump 氏であったが、
 この疑惑は約 2 年後の 2019 年 4 月に晴れた。今回はその最終的結論に関する彼の思
 いを伝えている tweet を 2 例見ておくこととする。彼の言い分は終始一貫はしてい
 た。一口で言えば「fake news (作り話) で、witch hunt (魔女狩り) だ」となる。

(1) Despite the fact that the Mueller Report should not have been authorized in
 the first place & was written as nastily as possible by 13 (18) Angry Democrats
 who were true Trump Haters, including highly conflicted Bob Mueller himself,
 the end result is No Collusion, No Obstruction ! (April 20, 2019)

▲「モラー捜査報告書は当初から公的なものでもなく、ジレンマに陥った B.モラー
 自身を含めてであるが私(Trump)を嫌悪する 13 (18)人の怒り狂った民主党議員によ
 り陰険極まる手法を用い書かれたもので、最終的な結果は共謀も司法妨害もなかつ
 たのだ！」という内容である。疑惑は晴れても、この時期なお余波は残っていた。

この静止した tweet 文を、次にやはり回転英文母型の MSOE スクリーンモデル
 [Basic での仮称別名 Automatic Sorting Machine for Output English (表層英文自
 動仕分け装置 : ASMOE [æsmou])] で電光掲示板風に動かさせ映し出してみる。

STATEMENT					
		THEME : NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	φ	φ	φ	φ	Despite the fact
2	that	the Mueller Report	should not have been authorized	φ	in the first place

3	& / ϕ (=, that)	ϕ (= it)	was written	ϕ	as nastily as possible
4	ϕ	ϕ	ϕ	ϕ	by 13 (18) Angry Democrats
5	who	ϕ	were true Trump Haters,	ϕ	ϕ
6	ϕ	ϕ	including	highly conflicted Bob Mueller himself, /	ϕ
7	ϕ	the end result	is	No Collusion, No Obstruction ! //	ϕ

(備考) 単一斜線 (/) は文の意味的 2 分割線。

STR が 7 層の深みのある文で、意味的 2 分割線が太斜線で示した STR 6 の himself の後ろとなるので、ここまでは確実にフォロー(follow)していないと意味理解ではぐれる。音声上では transcription (書き起こし) 用などには好例と言える。

この種のモデルでの pattern 認知の積み上げで英文の流れが身につくはずである。ランダムに配列された語を文とし完成させるいわゆる「英文整序法」で各語の他の語との共起性(co-occurrence)からその結合法と慣用性を見抜いていく訓練は効果的な pattern practice となる。語句整序法では英語での諸々の知識が一挙に働くことになり、手早い方法となる〔Basic 文による英文整序法を考えるものとして拙著『基本語で考える英文整序法：語配列の手順』、松柏社刊(2009)は参考となろう〕。

改めて 3 つの深層意味素(deep sememes)でこの tweet 文の意味内容を確認すれば
i) **ABOUT** : モラー報告書、ii) **BECAUSE** : 当初から公的なものでもなく、私を嫌う人間が陰險な手法で書いたもの、結果は共謀も司法妨害もなしであったので、iii) **PLEASE** : 一連の本件はゲームオーバーと理解されるべきである、のようになる。
3 つの深層意味素で ABOUT は段落文中での thematization (テーマ化) であり特に重要となる。これを正しく見定めることで全体の意味理解が容易になる。

文中の太線語 despite は本連載(10)の(2)ですで見えた。despite の[sp]の音に「見ること(to see)」の意味がある。「見ることもしないで」→「～にもかかわらず」。Basic では despite は in place of などが常套句。PIE etymon の音素形/SPEK/に由来し Basic 語 **respect, special** など、プラス α Basic 語 *specimen, spy* など、un-Basic 語 despise (軽蔑する) などは同系〔拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(112)参照〕。

文中 2 つ目の太線語 report はもちろん「報告書」のことであるが、これに関連して The gun went off with a sharp report. の意味は？これは「銃が鋭く発射された」で、この場合の report は「銃声」の意味である。{re (= back) + port (= to send)}で、「運び返すこと」が原義である。Basic 語 **porter, transport, support, important, etc.**、プラス α Basic 語 *sport, export, import, etc.* と同系。謎掛けなら「report (報告書・銃声) と掛けて何と解く？」、「駅・空港の赤帽(**porter**)と解く」、「その心は？」

→ 「どちらも<運ぶこと>が原義」となる〔同上拙著、第二部、例(66)参照〕。

3つ目の太線語 **result** (結果) は本連載(10)の(1)でやはりすでに見たが確認しておく。[zʌlt]の音には「跳びはねて出て来ること(jump)」の意味がある。PIE etymon の音素形/SAL/からで、Basic 語 **salt**、プラス αBasic 語 *salad*、un-Basic 語 *salmon* (サケ)、*insult* (侮辱・侮辱する) などは同系だと本連載(10)の(1)ですでに言った。塩の辛さで跳びはねることを意味する語である〔同上拙著、第二部、例(78)参照〕。

なお、下線とした highly conflicted の -ly, -ed が並行して使われる例には要注目。
(2) Can you believe that I had to go through the worst and most corrupt political Witch Hunt in the history of the United States (No Collusion) when it was the “other side” that illegally created the diversionary & criminal event and even spied on my campaign ? Disgraceful ! (April 21, 2019)

▲違法な犯罪行為をし、選挙活動をスパイさえしたのは「相手方」であった(共謀はなかったんだ)、それなのに私は米国史上最も凶悪で腐敗しきった政治的魔女狩りを経験することを余儀なくされた、信じられない、恥知らずな連中だ！という内容。

太線語 **corrupt** の[rʌpt]の音感から「破裂すること」の意味を感じ取りたい。プラス αBasic 語 *bankrupt* (破産)、*eruption* (火山などの爆発)、un-Basic 語 *interruption* (妨害)、*rupture* (破裂) などが同系である。

太線語 **witch** (魔女) は Basic 語 **wise** などと同系。元の印欧祖語の原義は「見て取ること」である〔本連載(12)、(14)の(2)参照〕。

太線の Basic 語 **history** は Basic 語 **story** ともちろん同系。なお、この **story** には「物語」と「(建物の) 階」の意味があるが、中世の時代の建築物に各階の区別を示すため窓に聖書内容や歴史物語が装飾的に描かれたことによる〔同上拙著、第一部 p.21、第二部例(67)の解説参照〕。

太線語 **diversionary** (わき道にそれた) は語中の -vers- に注目すればよい。音声 [vəːʒ], [vəːs], [vəːt], etc. は「turn (回すこと・ねじ曲げること)」の意味をもつ。ラテン系の Basic 語 **verse**, **advertisement**、プラス αBasic 語 *reversible* (可逆性の) など、また[v]は[w]としてゲルマン系の Basic 語 **wrong**, **worm**, **wire**, **work** など、un-Basic 語では *universe*, *wrestling*, *wrap*, *wrinkle* (しわ) などが同系である。他に多数の同系語が英語にあり一括分類される〔同上拙著、第二部、例(44)参照〕。

太線の Basic 語 **event** は他の Basic 語 **invention** などとも同系で、「出てくること(もの)」の原義に由来する。un-Basic 語では *convenient*, *adventure*, *prevent*, *advent*, *avenue* などすべて同系(他の例は同上拙著、第二部、例(100)参照)。

次の太線の Basic 語 **even** (～でさえ) は「水平であること、平行していること」の意味に由来する。他の Basic 語 **level** と同系のはずだと考えたい。

太線語 **disgraceful** は本連載(1)の⑦、⑧、(39)の(2)で見た形になる。PIE etymon の音素形/GRAT/に由来し、プラス αBasic 語 *grace*、un-Basic 語 *congratulate* などとも同系であるが、よりどころとして Basic 語に同系語を求めれば **agreement** がある。[grɪl], [gre], [græ]音は *pleasure* の意味をもつ〔同上拙著、第二部、例(74)参照〕。

文中で下線とした **when** (～のに) の「対照」の意味での使い方にも注目しておきたい。Basic 文例 It is still warm when the sun went down. (日が沈んだのにまだ暑い)、Why did you give it up when you may have got the chance? (うまくいったかもしれないのになぜ君はあきらめたのか) などがある。また、I won't go when I was said not to. (行くなと言われたので私は行かない) など「理由」の意味の例もある。

次に音声面と絡め、試問の形にして見てみることにする。

試問 次は本連載・前回 No. 38 で見た文例の一部であるが、表中の弱音系で「？」記号で示した7箇所に a, and, in my, of, on, the, with のいずれかの弱音系の語（句）を入れ、意味の通るようにするにはそれぞれ何が入るか。7語（句）から1つを選ぶのであり難しくはない。瞬時に正解したい。

(弱音系)	(強音系)
I	offered
?	help
of our	great experts
?	renovation
and	construction
as I	did
?	conversation yesterday
?	President@EmmanuelMacron
?	France. //
I	also wished both Pope Francis
?	President Macron
?	very Happy Easter ! //

本連載(36)、(37)、(38)でも扱ったこの種のモデルは音韻論的には mora（モーラ）と関わるが、英語の心的2拍子リズム(mental prosody)である。英語は1音節の弱音系の語の聴取が日本人の民族聴覚には難しい。2音節以上となると聞こえてくる。これは一般の英語の場合であるが、語彙の定まっている Basic の場合は的も定まる。

Basic 本体の850語の平均音節数は1.49（約1.5）であることは本連載(34)で言ったが、762語が1音節か2音節である。すなわち Basic は89.7%（約90%）は1～2音節語で、各語の発声に要する時間がきわめて短く、音が圧縮され、高周波音となる。また Basic は語形的にも-ed, -ing, -er 接辞の[d]（[t]）、[ɪŋ], [ə]の音が頻出するし、動詞は16語のみのしわ寄せで1音節の at, on, in, etc.の空間詞が支配的に現れもし、ますます高周波となる。したがって Basic の音韻体系は一般の英語とはかなり違ったものだと言える。しかしそれでもなお Basic は可聴性(audibility)がある。なぜか？やはり語彙制限によると結論づけられよう〔本連載(31)、(34)参照〕。

日音とは周波数が異なる英音であるが、人間言語の音声に関しては物理学的(physical)・音響学的(acoustic)研究とともに、言語学的に structural linguistics（構造主義言語学）での音韻論(phonology)・音素論(phonemics)研究が基本となる〔拙稿(2009)「Basic English と音声：聴覚神経レベルからのアプローチ」研究紀要 No. 16, pp. 8-21（日本ベーシック・イングリッシュ協会）など参照〕。

本会（日本ベーシック・イングリッシュ協会）も将来的には意味論(semantic)の一専門分野としての Basic 言語哲学 orthology（オルトロロジー）を専門とする若手の研究者が多数出て、次々と口頭研究発表・論文の形で公にされる必要がある。これなしには対外的に Basic の方法論が特別に注目されることは今後もありえない。

〔上の試問の正解は表中上から順に the, on, in my, with, of, and, a（前回の tweet 例参照）〕

